

(資料2)

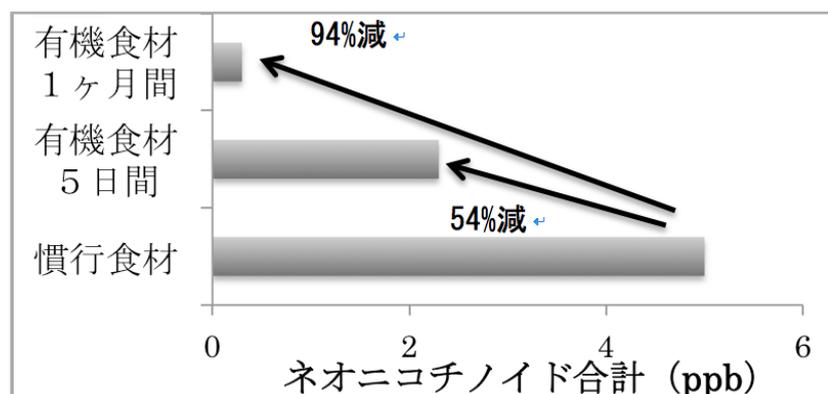
有機農産物を食べることで、殺虫剤ネオニコチノイドへの曝露を低減できる

【背景】日本は、中国、韓国と並んで農薬の単位面積当たり使用量が最も多い国です。浸透性と残効性が高いネオニコチノイドが 1990 年代より殺虫剤として使われ、現在では出荷量が年間 400 トンに及び、成人女性の尿からも検出されるようになりました。ヨーロッパでは使用を禁止に近づいている中で、日本では逆に残留基準がアメリカやヨーロッパよりも緩いものとなっています。

【目的】子育て世代の一般市民が農薬を散布して育てた慣行食材（スーパーで購入）を食べた時、尿からどれほどのネオニコチノイドが検出されるか専門家によって調べてもらいました。測定は 0.1ppb (ppb は 10 億分の一) まで行いました。ついで、有機食材を当会から無償提供して 5 日間食べてもらい、再度尿検査しました。

【結果】慣行食材を食べると、合計で 5.0ppb のネオニコチノイドが尿から検出されました。検出されたのは、ジノテフランが 2.7ppb と最も高く、次がアセタミプリド代謝産物の 1.6ppb でした。他のネオニコチノイドも人によっては検出されました。5 日間有機食材を食べると、合計値が半分以下の 2.3ppb に下がりました。1 ヶ月食べ続けると 0.3ppb にまで下がりました（下図）。日常から有機食材を生産して自らも食べている有機農業者も 0.5ppb でした。

【まとめ】田畑で散布されたネオニコチノイドは食材に残留して我々の体にも入ってきます（曝露）。慣行食材を食べ続けると、お母さんの中で子供がまだ胎児の時から大人になるまで複数のネオニコチノイドに継続して曝露され続けることとなります。ネオニコチノイドへの継続的な曝露を減らす「予防原則」に立って有機農産物を食べるのが勧められます。そのためには、国内の有機農業を国をあげて推進し、農家が有機農業で生計を立てていけるように国が支援することで、消費者も容易に有機食材を入手できるようにすることです。



年間ネオニコチノイドの出荷量と尿中濃度

